

MYU NEWS

宮城大学広報誌「MYU NEWS」
新創刊号 2018年9月26日発行



Taiwa Campus Renewal

4つのコモンズがオープン、交流棟リニューアル

「キャンパスにもっと学生の場所を」をコンセプトに、大和キャンパスでは、館内の大幅リニューアルを実施。
学修用フリースペースとして、本部棟に4つのコモンズがオープン、交流棟もリニューアルしました。

contents

—	—	—	—
P02-03	P04-05	P06-07	P08
Taiwa Campus Concept	Head Office Building	Academic and Cultural Exchange Building	Floor Overview
コンセプト	本部棟	交流棟	本部棟・交流棟フロア概要



New Taiwa Campus, new way of learning.

はじめましょう。新しい大和キャンパスから。

高度情報化する社会の中で、いま

学生に求められる資質や能力が変わりつつあります。

たとえば、インプットした知識を、どのように生かしていくか。

そして自ら思考し、考える力を高めながら

どのように解決策や最適解を導き出していくか。

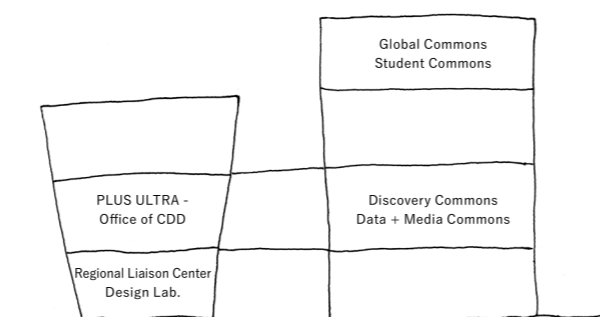
こうした主体的な学び方（アクティブラーニング）を可能にする

“学生のための、新しい場所づくり”をめざして、

宮城大学大和キャンパスは 2018 年秋リニューアル。

すべては、約 1900 名一人ひとりの学生の

学びと学び方をサポートするために…。



新しい学びの動線を生む、新ゾーニング。

分散していた学群の学びに必要な機能を同じフロアに集約するなど、本部棟・交流棟のフロアごとのゾーニングを変更。学生同士が学びあえる環境をより進化させました。また地域連携センターやキャリア開発室など地域社会とつながりをもつ既存機能が有機的にリンクし、地域社会と連携していく機能強化も図っています。

Introducing our 4 “Commons !”

集い、つながり、学びあう。学生のための新たな“学び場”、それがcommons。

気軽に、自由に、自在に【スチューデントcommons】

たとえば、規模を問わず、いつでも思い立った時に気軽にミーティングを開きたい。講義後、疑問点を友達とすぐに確認したい。飲み物片手にリラックスしながら、ゼミ仲間とプレストしたい。従来の自習室やカフェ・自宅ではなかなかできなかったこうした学び方が、飲食自由、机・椅子レイアウト変更自由な使い勝手抜群の「スチューデントcommons」なら、実現できるはずです。

探す、交わす、そして発見する【ディスカバリーcommons】 (図書館)

約 13 万冊の蔵書を誇る図書館で横断的にリサーチしながら、その場でさまざまな課題について仲間たちと意見を交わしたり、ディスカッションできたら…。こうしたニーズに応えるのが、ミーティングスペースとフリースペースを備えた「ディスカバリーcommons (図書館)」です。フリースペースは、発表イベント等にも活用可能。ここから、新しい発見が生まれるかもしれません。

異文化へ、TOUCH & DIVE【グローバルcommons】

海外留学や語学試験などいつでも相談できるスタッフ、豊富な英語学習教材、ランゲージブース、語学練習可能なミーティングルーム、留学生が集うフリースペース、海外放送や海外雑誌が楽しめるスペース…。そんな、異文化への入り口となる場所が「グローバルcommons」です。自分とは異なる地域・文化にふれることで、視野をグローバルに広げるキッカケをつかんでみては。

創る～シェアまでシームレスに【データ&メディアcommons】

「データ&メディアcommons」は以下の4つのセクションから構成され、勉強や研究、制作活動などを行うための多様な支援を提供します。

- ① オープンスタディ (PC 持ち込み可能な少人数の学修空間)
- ② デジタルリサーチ (多様なソフトウェアを搭載した PC やプリント機器を設置)
- ③ メディアシアター (4K 映像や 7.1ch サラウンド音響を視聴可能)
- ④ サポートオフィス (相談窓口)

Head Office Building

新しくなった本部棟、その新たな可能性。



【スチューデントcommons】

学群・学類の壁を越えて
プロジェクトチームを結成すること。

学生同士が気軽に集い、アイデアをぶつけ合ったり、気の合った学生同士でチームを組んだり…。そんなオープンな環境が整っています。



【グローバルcommons】

母語以外の言語で
普通にコミュニケーションをとること。

さまざまな国の留学生が集うので、しぜんと外国語でコミュニケーション。ネイティブが身近にいと、外国語の上達も早はず。



【グローバルcommons】

外国語試験のスコアを
400ポイント以上アップさせること。

留学や外国語試験など、いつでも親身に相談にのってくれる専任スタッフが常駐。TOEIC®などの試験の得点アップに活用できます。



【ディスカバリーcommons (図書館)】

過去100年分の
統計資料をまとめること。

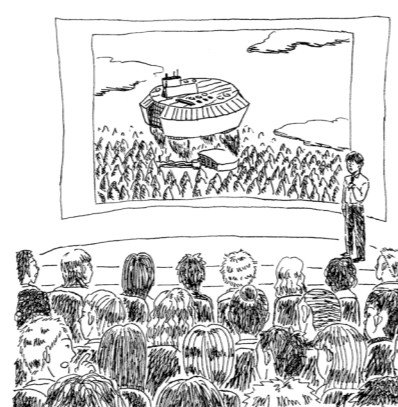
ディスカッション中に気になることがあったら、目の前に広がる膨大な書籍とインターネットの両面から即座にリサーチが可能です。



【データ&メディアcommons】

在学中に何度もVRで
海外旅行を体験すること。

高度なアプリケーションやデジタル設備を多数揃えているので、たとえばVRを使って世界一周旅行するといった体験も今後可能に。



【データ&メディアcommons】

自作した映像作品を
たくさんの人に見てもらふこと。

大型スクリーンを備えたメディアシアターなら、アイデアや制作物を、より多くの人に公開し、さまざまな反応を見ることができます。





Academic and Cultural Exchange Building

新しくなった交流棟、ここから多彩な交流・連携がはじまります。

【PLUS ULTRA-】

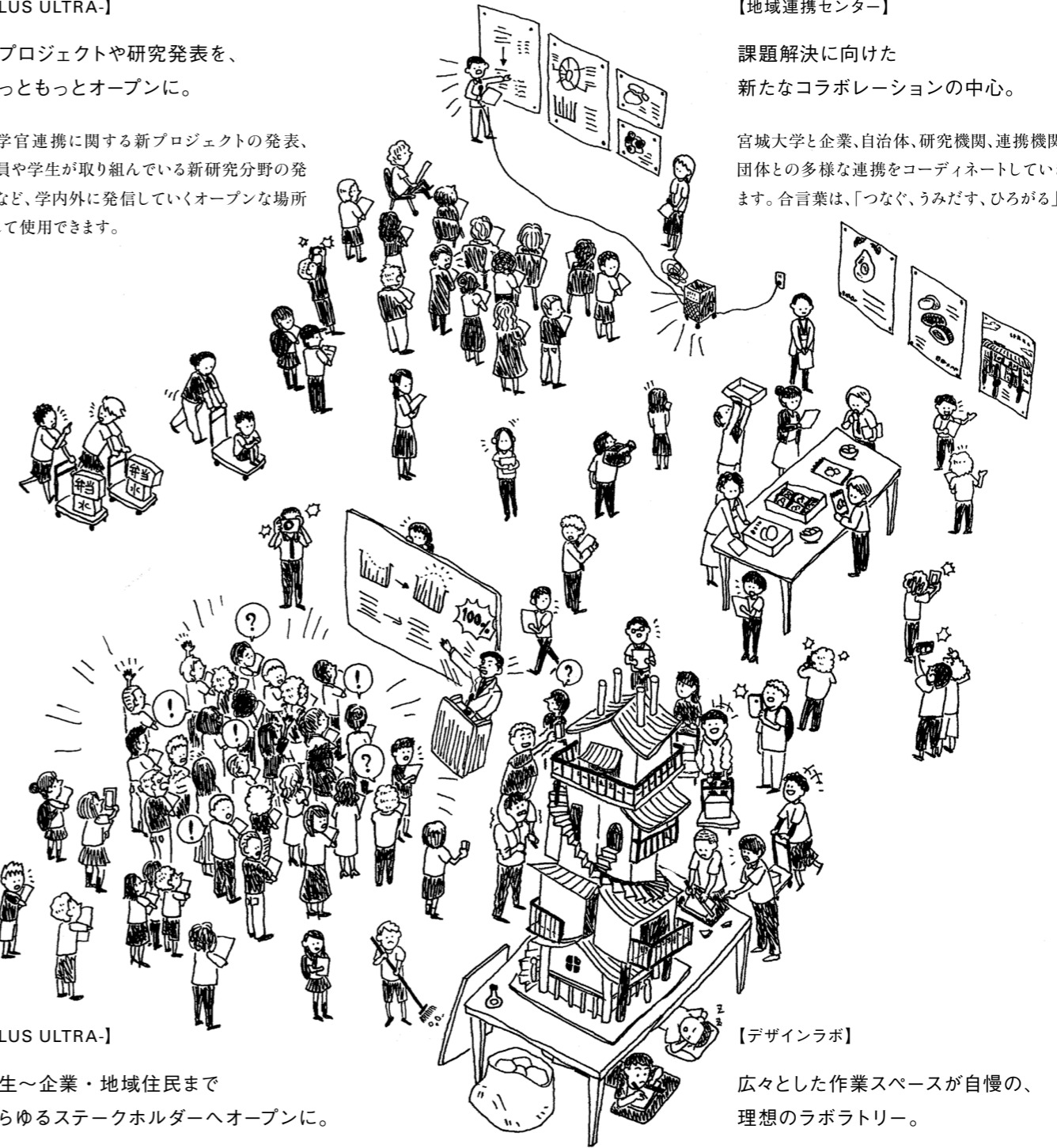
新プロジェクトや研究発表を、
もっともっとオープンに。

産学官連携に関する新プロジェクトの発表、
教員や学生が取り組んでいる新研究分野の発表など、
学内外に発信していくオープンな場所として使用できます。

【地域連携センター】

課題解決に向けた
新たなコラボレーションの中心。

宮城大学と企業、自治体、研究機関、連携機関・
団体との多様な連携をコーディネートしていきます。
合言葉は、「つなぐ、うみだす、ひろがる」。



【PLUS ULTRA-】

学生～企業・地域住民まで
あらゆるステークホルダーへオープンに。

ゲストを招いた特別講義やイベント、地域住民
を交えたワークショップ、企業主催のセミナー、
カンファレンス・講座など幅広い用途で使用可
能です。

【デザインラボ】

広々とした作業スペースが自慢の、
理想のラボラトリー。

広い作業スペースで仲間と共に作業する、そして
先輩と後輩が学年を越えて交わる。そんな理想の
空間から今、新しいクリエイティブが生まれようとして
います。

Floor Overview

本部棟・交流棟フロア概要

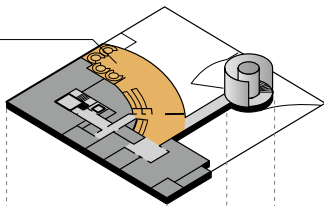
PLUS ULTRA- (プラス ウルトラ-)

「さらなる前進」という意味をもつ「PLUS ULTRA- (プラスウルトラ-)」は、地域と学生をつなぐ、よりオープンなスタジオ空間として設計されています。学内外の方々と交えて、セミナーやカンファレンス、講義・会議、ワークショップ、エキシビションなど、さまざまなアクティビティをフレキシブルに展開することができます。

【交流棟】

3F

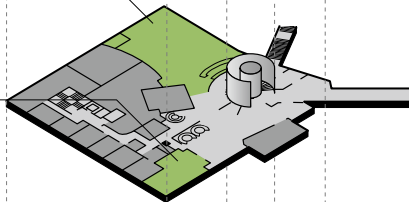
サロン



2F

PLUS ULTRA-

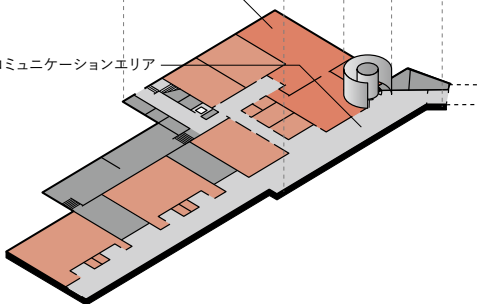
キャリア開発室



1F

地域連携センター

コミュニケーションエリア



【本部棟】

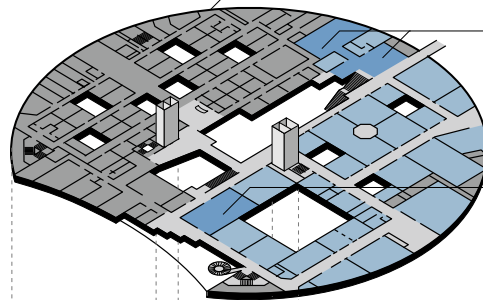
4F

教員スペース
(事業構想学群・基盤教育群スペース)

グローバルcommons
・インナーcommons
・アウターcommons

講義室・演習室スペース

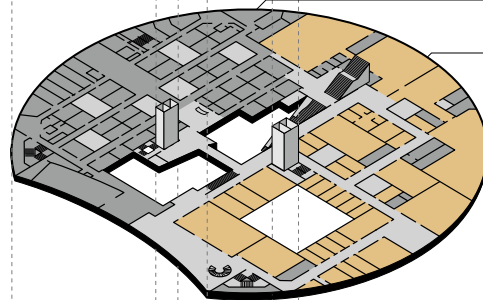
スチューデントcommons



3F

教員スペース (看護学群)

講義室・演習室スペース



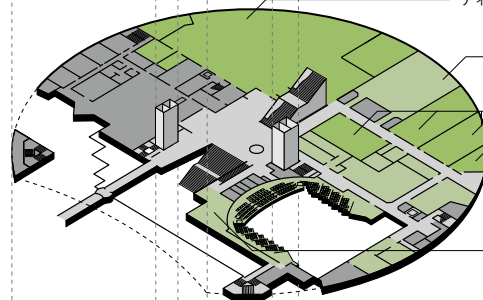
2F

ディスカバリーcommons (図書館)

大講義室

データ&メディアcommons
・オープスタディ
・デジタルリサーチ
・メディアシアター
・サポートオフィス

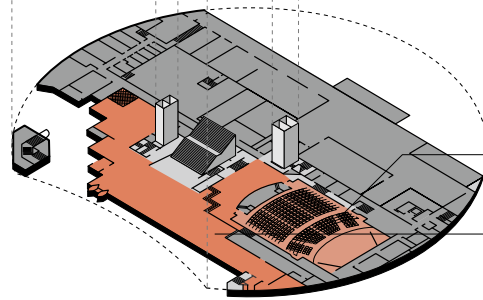
コミュニケーションエリア
(テラス)



1F

講堂

コミュニケーションエリア
・エントランス
・カフェテリア
・売店



新しいサインについて

学生たちが大学で、アクティブに学ぶための空間、施設の在り処を示唆する場所を「灯(ともす)」と「光(ひかる)」をコンセプトにデザインしたサインボードに記している。学生たちが新しい学び、体験を身につける原風景となるような象徴的な造形を志している。



[編集・発行]

宮城大学 広報委員会専門部会

〒981-3298

宮城県黒川郡大和町学苑1番地1

TEL. 022-377-8217

[撮影・デザイン]

株式会社フロット

[監修]

宮城大学 コモンズ等整備検討委員会